

膀胱異物（手術用縫合針）の1例

福島県立医科大学泌尿器科学教室（主任：白岩康夫教授）

入澤 千晴，山口 脩，白岩 康夫

入澤病院泌尿器科

菊地 悦啓，入澤 俊氏

山形大学医学部泌尿器科学教室（主任：中田英浩教授）

入 澤 千 晶

A CASE OF A FOREIGN BODY IN THE URINARY BLADDER

—A SURGICAL SUTURE NEEDLE WAS FOUND IN URINARY BLADDER—

Chiharu Irisawa, Osamu Yamaguchi Yasuo Shiraiwa

From the Department of Urology, Fukushima Medical College

Yoshihiro Kikuchi, Syunshi Irisawa

From the Urology, Irisawa Hospital

Chiaki Irisawa

From the Department of Urology, Yamagata University School of Medicine

We report a case of an unusual foreign body in the urinary bladder.

A 66-year-old male had undergone an operation of rectal cancer 6 years previously. He visited our hospital with irritative urinary symptoms.

Urinalysis showed hematuria, and X-ray examination revealed a curved fine shadow (about 2 cm in length and 3 mm in width) at the vesical region. In cystoscopic examination, a calcified surgical suture needle was identified on the trigonal region. The needle was removed transurethrally by a stone crushing forceps.

Thus, it was assumed that the needle had been left in the abdominal cavity at the operation 6 years ago and it had migrated into the bladder during these 6 years.

Many cases of foreign bodies in the urinary bladder have been reported. However, to our knowledge, this is the first report of a surgical suture needle, in the bladder.

(Acta Urol. Jpn. 37: 1547-1549, 1991)

Key words: A foreign body in urinary bladder, Surgical suture needle

緒

言

尿道および膀胱異物は稀な疾患ではなく、1985年までに本邦において1,300例が報告されている。自慰や性戯を目的とした経尿道性異物が圧倒的に多いが、原発性の経膀胱壁性異物の報告も散見される。われわれは直腸癌手術後6年を経過した患者の膀胱内に手術用縫合針を認めた膀胱異物の1例を経験したので報告する。

症

例

患者：66歳，男性

主訴：排尿痛，頻尿

既往歴：6年前，某院で直腸癌の診断にて前方切除術を受けているが，術中膀胱を開けるような操作は行なわれなかった。術後の定期検査において異常を指摘されたことはなかった。

現病歴：1989年5月頃より排尿痛，頻尿が出現したが放置していた。しかし，症状が次第に増強してきたため，同年7月20日当科を受診した。

来院時現症：36.6°C. 体格中等度，栄養良，左下腹部に約 15 cm の手術瘢痕を認めるが，他に異常なし。

検査所見 血液一般・生化学検査に異常を認めず，尿沈渣にて血膿尿を認めた。

X線検査所見：骨盤部単純写真にて小骨盤内に長さ約 2 cm，幅約 3 mm の彎曲した陰影と，直腸の吻合に用いたと思われる auto suture 針がリング状に認められた (Fig. 1). 排泄性腎盂造影で上部尿路に異常を認めなかった。

以上より，異物結石を疑い直ちに膀胱鏡検査を行った。

膀胱鏡検査所見：粘膜麻酔下，膀胱鏡にて膀胱内を観察すると三角部中央に長さ約 2 cm で石灰化を伴った手術用縫合針を認めた。また，粘膜全体に発赤および軽度の浮腫を認めたが潰瘍や穿通痕はなかった。そこで，Young 氏異物用膀胱鏡にて縫合針を摘出した。

摘出標本：所々に結石が付着した手術用縫合針であった (Fig. 2)。

結石成分分析：縫合針に付着した結石はリン酸カルシウム78%，リン酸アンモニウムマグネシウム22%の混合結石であった。

経過：経口用抗生剤を投与し外来通院で経過をみた。4日目には尿所見も改善し膀胱刺激症状も消失したので，尿流量検査および残尿検査を施行したが異常を認めなかった。

考 察

尿道および膀胱異物は稀な疾患ではなく，本邦においては1917年小沢¹⁾が18例を報告して以来，1985年までに1,300例が報告され，統計的観察が行われている²⁻⁶⁾。

進入経路の違いで経尿道性異物と経膀胱壁性異物に分けられるが，岸ら⁶⁾の集計によると前者が約6割，後者が約3割であった。

経尿道性異物の原因としては自慰・性戯が圧倒的に多く，種類は植物やビニールチューブから体温計まで多岐に及ぶ。一方，経膀胱壁性異物は産婦人科・泌尿器科・外科手術等に起因する医原性異物，特に手術時止血に用いた糸が多い。また，最近の医療の進歩に伴い人工骨頭やペースメーカーなど各種人工物を体内に留置する機会が増えているためか，その合併症としての膀胱異物の報告も散見される^{7,8)}。しかし，術中体腔内に置き去られたガーゼが膀胱異物となったとの報告が49例もあることには驚かされる。

体腔内に存在する異物は肉芽組織に包まれ比較的容易に移動し，特に膀胱近接部にある場合は膀胱内に排泄されるといわれている⁹⁾が，これは膀胱が尿のみな

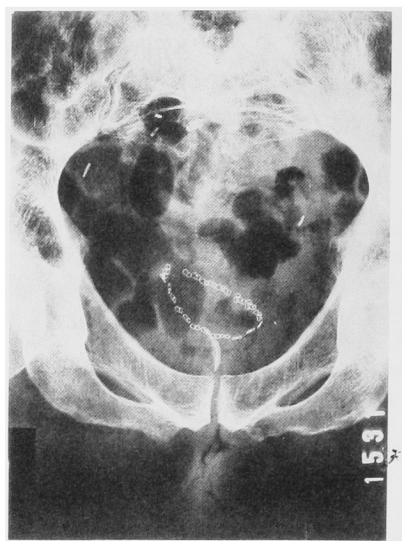


Fig. 1. 骨盤部単純撮影：小骨盤内に約 20×3 mm の彎曲した陰影とリング状の autosuture 針を認める。

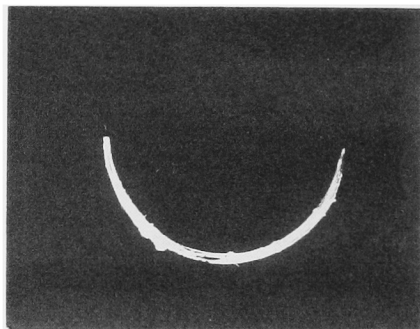


Fig. 2. 摘出標本：石灰化を伴う手術用縫合針

らず異物の排泄腔となりうる生体防御機構に帰するものと思われる。医原性以外の経膀胱壁性異物の報告には，誤飲した裁縫用縫合針^{10,11)}や義歯¹²⁾などがあるが，これらも消化管を貫いた後体腔内を移動し膀胱に排泄されたものと思われる。

われわれが膀胱内に認めた手術用縫合針は6年前の直腸癌の手術の際，術野に置き去られたものと思われるが，可及的に内外の文献検索をしたが，このように置き去られた手術用縫合針が膀胱異物となったとの報告はみられなかった。

われわれ外科医は，如何なる手術に際しても使用した止血鉗子・縫合針・ガーゼなどの数を充分確認する必要があることを痛感した。

文 献

- 1) 小沢慶三郎：膀胱異物に就いて，順天堂医事研究

- 会雑誌 540: 962-978, 1917
- 2) 山崎 徹, 玉置 明: 膀胱異物症例および統計的観察. 泌尿紀要 4: 264-269, 1958
 - 3) 北村俊一, 増永昭佳, 矢野鎮夫, ほか: 膀胱異物症例追加ならびに本邦報告例の統計的観察. 日大医誌 27: 373-378, 1968
 - 4) 済 昭道, 佐々木信之, 永田 均, ほか: 膀胱内異物の7例. 臨泌 31: 545-549, 1977
 - 5) 仲谷達也, 千住将明, 井関達男, ほか: 膀胱および尿道異物の統計的観察. 泌尿紀要 29: 1363-1368, 1983
 - 6) 岸 浩史, 碓井 亜, 石部知行: 膀胱内異物の1例. 西日泌尿 48: 1675-1677, 1986
 - 7) Sharma VP, Nobeebux Y, Patni J, et al.: Unusual foreign body in the bladder. Br J Urol 59: 92, 1987
 - 8) Baumgartner G, Nesser HJ and Jurkovic K: Unusual case of dysuria: Migration of a pacemaker generator into the urinary bladder. PACE 13: 703-704, 1990
 - 9) 増田富士男: 膀胱の異物. 新臨床泌尿器科全書 6B: pp. 140-154, 金原出版, 東京, 1982
 - 10) 杉本万亀蔵: 膀胱異物症. 大阪医事新誌 11: 872-877, 1940
 - 11) 志賀 亮, 杉山万喜蔵: 幼児の膀胱内異物(高位切開摘出). 臨床の日本 4: 644-652, 1936
 - 12) 八田栄造, 木村 昇, 杉浦純宮, ほか: S状腸内異物(義歯)膀胱内穿孔の1例. 日泌尿会誌 51: 1308, 1960

(Received on January 9, 1991)
(Accepted on April 25, 1991)